



村上晴夫議員

## Q 本町の財政見通しと22年度予算編成について問う

### A 厳しい財政だが第5次振興計画の策定が重点となる

**問** まず、本町の財政の中・長期的見通しは。

**町長** 町の財政計画では、公債費支出が平成23年にピークを迎え、高齢化に伴う扶助費の増加等により、経常収支比率は95%程度で推移し、財政運営は厳しい見通しだ。

**問** 本町の財政を考えると、公立藤田病院の負担割合の問題がある。20年度決算

では、累積22億6300万円、赤字である。大変な危機感を持っているが、町長としてどのように認識しているのか。

**町長** 藤田病院は国見・桑折・伊達市の三町で構成され、それぞれ5対4対1の割合の負担率となっている。これは病院が設立された当初からで、病院の利用率からいうと改善の余地は

あるが、一朝一夕にはいかない部分がある。

**問** 21年度の税収見込みは。

**町長** 現在までの課税と収納の実績の状況においては、各税目において増減はあるものの、総体的に当初予算は確保できる見込みである。

**問** 22年度の予算編成に際しての重点施策は何か。

**町長** まず、第5次振興計画の策定が大きな事業となる。それから、防災の情報通信設備の整備、少子高齢化対策、こども医療費助成、小学校の統廃合に向けた取り組み、道の駅設置事業などが重点になると考えている。

**問** 地域産業政策のため、産・官・学の連携に取り組むべきと思うが。

**町長** 産・官・学も取り入れながら、産業政策の活性化のため創意工夫していきたい。

**問** 地域の課題を解決するため、「予算要望権」を町内会に与え、職員による町内

会担当制とリンクさせた、協働、参加型のまちづくりを進めてはどうか。

**町長** 町内会の職員による担当制は検討はしているが、具体的にはいろいろと問題があり、難しい状況である。提言として受け止めてたい。

**問** 地方分権に備え、自ら

考え、行動し、町民から信頼される職員づくりのため、職員研修の予算を増額すべきでないか。

**副町長** 各分野において職員研修費は確保しており、今後はさらにみんなに研修してもらおうような体制をとっていきたい。

## Q 行財政改革を今後どう取り組むのか

### A 数値目標を設定して進めたい

**問** 国見町行財政計画は平成18年度スタート以来4年を経過しようとしているが、その評価について、町長の見解を伺いたい。

**町長** 「第4次国見町行財政改革大綱」について、平成20年度は62・3%の進捗率ということで、改善につながったと評価している。

**問** 数字とすればそうかも知れないが、町民の立場か

らすると、実感がない。やはり、目に見える形にすべく、目標を設定し、進めていきたい。

**町長** 現在、第5次振興計画の策定準備に入っているが、数値目標を設定し、どれだけ達成したかということが数字で表れてくるような進行管理をしていきたい。